



# どしゃ 土砂災害に備える

こんな現象を見たら…聞いたら…「早めの避難、日頃の備え」  
土砂災害の多くは雨が原因で起こります。1時間に20ミリ以上、  
または降り始めから100ミリ以上になったら要注意!

## 土砂災害の主な前兆（前ぶれ）現象

### ○土石流の前ぶれ

- ・山鳴りがする
- ・急に川の流れが濁り、流木が混ざっている
- ・雨が降り続けているのに、川の水位が下がる

### ○崖崩れの前ぶれ

- ・崖に割れ目が見える
- ・崖から水が湧き出ている
- ・崖から小石がパラパラ落ちてくる

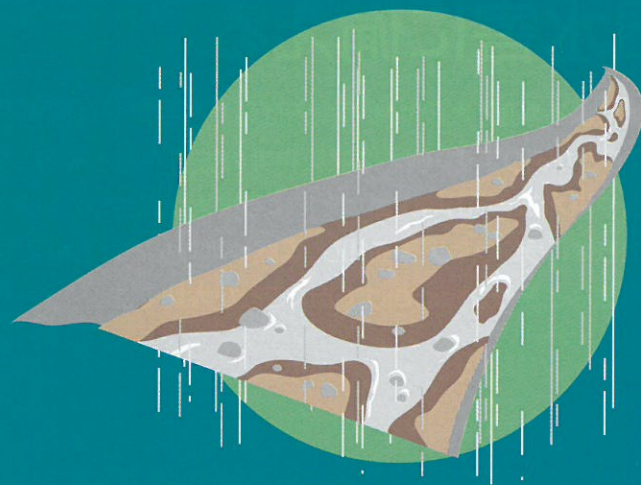
### ○地すべりの前ぶれ

- ・沢や井戸の水が濁る
- ・地面にひび割れができる
- ・斜面から水がふき出す

※前ぶれがあったら、むだ足覚悟で即、避難!!

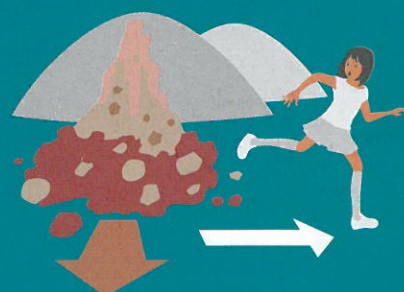
- ・危険を察知したら、避難指示がなくても自主的に避難する
- ・夜でも気象情報に注意しましょう

○県内には、土砂災害危険箇所と土石流危険渓流が約1,100カ所、  
急傾斜地崩壊危険箇所が約2,100カ所、地滑り危険箇所が約600  
カ所あります

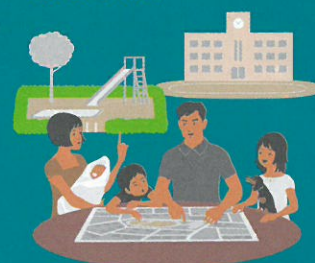


雨に注意して  
いますか?

逃げ方を知って  
いますか?



避難場所は決まっ  
ていますか?



※危険区域図は最寄りの県土木事務所、市町村役場  
で見ることができます

※避難する道に危険な場所がないか、日頃から調べて  
おいてください

※危険な現象を見たり、聞いたりしたら最寄りの県  
土木事務所や市町村役場に連絡してください

# 風水害に備える

台風による暴風、大雨や集中豪雨は私たちに大きな被害をもたらすことがあります。例えば建築物等の被害や浸水被害、河川の氾濫や洪水被害、山地災害などによる被害が発生しています。私たちはこういった災害を知り、家庭や地域における備えや避難の方法など普段から心がけておくことが大切です。

- テレビやラジオをよく聞き、気象注意報・警報などに十分注意する
- 土砂崩れや高潮などの災害の発生が予想されたり、家屋などに危険が迫ったときに備えて、一時的に避難する場所や避難順路の確認をしておく
- 避難の勧告や指示が出された場合にはこれに従い、地域の人々と協力し合って避難する
- 周囲の状況からみて危険と判断した場合には、避難の勧告や指示が出る前でも、自主的に避難する
- 日頃から避難するときのための携行品や家族の非常連絡先、避難予定地を決めておく
- 家族で避難場所などについて話し合いをもち、重要なことはあらかじめ決めておく
- 排水路には、雑草やビニール袋などゴミが溜まり、小雨でも浸水する場合があります。排水路が詰まらないよう、普段から清掃に心掛ける
- 避難するときは動きやすい服装で、回り道などもあらかじめ確認しておく
- お年寄り、子ども、病人、体の不自由な方などには、家族ばかりではなく近所の人も気配りして、早めに避難する

## 風の強さと吹き方



風に向かって歩きにくくなる  
傘がさせない

樹木全体が揺れる  
電線が鳴る

10以上～  
15(m/秒)未満  
やや強い風

風に向かって歩けない  
転倒する人もでる

15以上～  
20(m/秒)未満  
強い風

小枝が折れる

20以上～  
30(m/秒)未満  
非常に強い風(暴風)

しっかりと身体を確保し  
ないと転倒する

## 雨の強さと降り方



地面からの跳ね返りで足元がぬれる

地面一面に水たまりができる

10以上～  
20(mm/時)未満  
やや強い雨

20以上～  
30(mm/時)未満  
強い雨

傘をさしていてもぬれる

道路が川のようになる

30以上～  
50(mm/時)未満  
激しい雨

50以上～  
80(mm/時)未満  
非常に激しい

傘は全く役に立たなくなる

80(mm/時)以上  
猛烈な雨

水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる



立ってられない  
屋外の行動は危険

樹木が根こそぎ倒れはじめる

30(m/秒)以上～  
猛烈な風